しろちどり

第83号

2015年3月　日本野鳥の会三重
http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

鳥の名前って！！その由来は？

四日市市　安藤　宣朗

私のハンドルネームは“ホオジロ”身近に親しまれ、誰もが知っていることにあやかった名前である我が子に付ける名前は、親の願いや期待がこもったものに違いない。さて鳥の名前は、どこから来たきのだろう？日ごろ見かける鳥たちの名前の由来を探ってみた。

ホオジロ（頬白）って本当に頬が白い？どう見ても頬は黒いんだけどなぁ！顔から見れば「頬黒」なんだけど、黒はどうもイメージが良くないので眉斑の白い所を見たてて頬白なのかな？ホオアカ（頬赤）はどうだろう？まさに一目瞭然、頬が赤く納得。ホオジロの語源は、ホホ（頬）イチジロシ（著し）であるとの説がある、ホオジロが囀る姿を見ると、頬をふくらませて著しく囀ることからホホイチジロシがなまってホオジロとなったようだ、シロは、白色でなく囀る姿だったんだ、こんどホオジロの囀る姿を注意深く観察して見よう。

トビ（鳶）は、高く遠くへ飛ぶことから「飛ぶ」がトビとなりヒバリ（雲雀）は、うららかに晴れた春の日に空高く囀る姿から「日晴（ひはる）」がヒバリ、県の鳥シロチドリ（白千鳥）は、「千の鳥」とは文字通り群をなす鳥の意味、アトリ（集鳥または花鶏）は、大きな群れを成すことから「集まる鳥」が略されて「あつとり」さらに「アトリ」になった、ウグイス（鶯）は、古今和歌集に「うくひす」とあり、「うく」は奥、「ひす」は出ずるのことで春になると、谷の奥から出てくると言う語源説がある。ヒレンジャク（緋連雀）は、字から連想される通り数多く連なり（群れて）行動すること、ヒ（緋）は、尾の先端が緋色である
ムクドリ（椋鳥）は、椋の実を好んで食べることによるが、群れて騒がしいから「群来鳥（むくどり）」との説もある、これらは、鳥たちの行動や習性が名前となっている例である。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝目　　次＝＝＝＝＝＝＝＝

鳥の名前って!!その由来は？----------1
表紙の言葉----------1
野鳥展　ベルファームに来る鳥たち----------2
事務局だより----------3
日本に訪れる冬鳥たち----------5
野鳥記録----------9
ミヤコドリカウント速報----------12
探鳥会報告----------13
編集後記----------15

表紙の言葉

津市　石原宏

ある専門誌で読者が選んだ“美しい鳥”ではカワセミがダントツの一位になったと・・・読んだ。

水辺の宝石だとか呼ばれて、探鳥会などで、この子が現われると一段と盛り上がる。不動の人気者である。

最近では街中での池沼や河川でもよく見られる様になったと言われている。私の住む津市周辺でも観察ポイントが幾つかある。彼らなりに変わる環境での生き抜く術をさがしたのだろう。

庭先に来るメジロ（目白）は、可愛い白いアイリングだから目白、ベニマシコ（紅猿子）は、赤い顔が猿の赤い顔（猿子）に似ていることから、カモメ（鴎）は、どうか？若い鳥には、褐色の斑が有り籠の目のように見えることから「かごめ」がカモメになったとか、このように鳥の姿や外観から名付けられた鳥も少なくない。

鳴き声から名付けられた鳥たちも多い、モズ（百舌鳥）は、「モ」が色んな鳥の声を真似するので「諸々」の「モ」で「ス」が鳥を表す接尾語、どこでも見掛けるヒヨドリ（鵯）は、「ピーヨピーヨ」と鳴く鳴き声が名前になった。ウソ（鷽）は、鳴き声が「フィッフィッ」で口笛に似ており口笛を吹くのを「うそぶく」と言うことから「ウソ」、シジュウカラ（四十雀）は、地鳴きが「チ・チジュクジュク」なので「シジュウ」と解し「カラ」は小鳥の総称。また、スズメの 40 羽分の価値が有るとの俗説もある。

お店の人からは、始終空では困るので嫌われるとも言われている、面白いのは、サンショウクイ（山椒喰）で、その昔ヒリヒリ辛い山椒を食べたのでヒリヒリンと鳴くことから名付けられたようだが、あんなに辛い実をほんとに喰ったか？あやしいところ、スズメ（雀）も同じように「シュンシュン」と鳴く声が「スズ」となり「メ」は小鳥の意味。

イカル（斑鳩）は、奈良県の斑鳩（いかるが）に住む地名が鳥の名前になった珍しい例もある。

このように、鳥の名前は、習性や行動・外観や姿・鳴き声・他の特徴をとらえたものが多い。

鳥の名前は、はるか古の時代から様々な図譜が記され、時代の変遷とともに変わって来た経緯がある

ここに記載した由来は、ほんの一例で、他に色々な説が有ることを付記しておく。

参考文献
図説日本鳥名由来辞典（菅原浩、柿澤亮三　柏書房）
鳥の名前（大橋弘一　東京書籍）

****

野鳥展

～ベルファームにくる鳥たち～

西村　泉（事務局）

２０１４年１２月６日、７日の２日間、松阪農業公園ベルファームで企画展を行いました。この企画展をさかのぼること半年前、野鳥や自然を大切にする仲間を増やすために企画展を開催できないかと理事会で話し合いました。そのなかで、毎年ベルファームで探鳥会をしていることに着目、ベルファームのある場所は松阪インターの近くで交通のアクセスがよく、探鳥会とセットで行うことができると判断しました。さっそくベルファームに出向くと、会場は４０名収容のこじんまりとした施設しかありませんでしたが、企画展の趣旨を伝えたところ、ベルファーム側から「共催」を申し出ていただき無償で会場をお借りすることができ、加えて広報もしていただきました。　共催なので「ベルファームにくる鳥たち」というテーマで、まずはベルファームの地図や池の説明のパネルを平井代表が作成し、ベルファームで見られる美しい野鳥の写真３０枚を林さんに提供していただきました。また、同地での野鳥の映像を今井さんにお願いしましたら、短い準備期間にもかかわらず「ベルファームの水辺の鳥たち」と題した立派な作品を披露してくれました。

当日２日間は風が冷たく寒かったのですが、探鳥会と合わせて約２００人の参加がありました。開催と同時にこられたご夫婦は、熱心に野鳥の写真を眺めスタッフに質問していました。また映像でハシビロガモの口ばしが櫛状になっている様子は、会員からも驚きの声が上がっていました。

これらの展示のほかに、家族連れにも来場してもらおうと「手作りコーナー」や「読み聞かせ・紙芝居」「ミニコンサート」、コーワさんによる「双眼鏡と望遠鏡の展示」を行いました。「手作りコーナー」では、簡単なのに見栄えのするクリスマス飾りを準備しました。

小さなお子さんにはスタッフがつきっきりで補助し、モビールの小鳥にいろいろな色をつけ完成すると「やった！」と喜んでいました。

「紙芝居」は、拾った小鳥を手放したくない女の子のお話を中西さんが熱く語りました。そして、「ミニコンサート」では、もの哀しい曲を世古口さんのギター演奏に合わせて小坂さんが歌い、最後に参加者全員で「翼をください」を合唱しました。

「望遠鏡コーナー」にも多くの参加者が立ち寄ってくれました。

また探鳥会は、厳寒にもかかわらずいつもの倍の参加者があったとのことです。

師走の慌ただしいなか、一人ひとりがそれぞれの「野鳥」を楽しんでいただけたのではないかと思います。

この野鳥展では、松阪農業公園ベルファーム、コーワの北井さん、中村さんはじめ松阪地区のみなさん、南勢地区の橋本さん、遠方からかけつけてくれた会員さん、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

++

事務局だより

活動の記録（2014 年 12 月～ 2015 年２月）

2014 年

12	会報「しろちどり第 82 号」発行・発送作業
12	平成 26 年度カワウねぐらコロニー調査（県委託）実施
12	平成 26 年度ガンカモ類及びカワウ一斉調査の準備・発送作業
12/6 ～ 7	松阪農業公園ベルファームにて野鳥展を開催
12/8	紀伊長島赤野島カワウ問題について株式会社野生動物保護管理事務所の加藤洋氏から話を聞く
12/15	第１回ミヤコドリ・カウント実施

2015 年

1	来年度の探鳥会計画のまとめ調整作業
1/11	平成 26 年度ガンカモ類及びカワウ一斉調査（県委託）実施
1/18	第２回ミヤコドリ・カウント実施
2/1	ホームページ改変についての話し合い
2/13	紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理対策連絡協議会（平井出席）
2/26	第３回ミヤコドリ・カウント実施

お知らせ

○忘れ物です！ 昨年 12 月松阪農業公園ベルファームで野鳥展が開催されましたが、会場にモスグリーンのフリースベストが置き忘れてありました。事務局で預かっていますので、心当たりのある方はご連絡ください。

○運営委員の募集　　会の運営（企画部、研究部、編集部、保護部、事務局）をお手伝いいただける方、ご連絡をお待ちしています。

事務局・西村（090-1566-6010）

日本に訪れる冬鳥たち

津市　林　益夫

野鳥の撮影で私が常に心がけていることは野鳥が住む自然環境に合わせた情景の中で如何に目的の鳥を美しく、又その鳥の特徴を引き出させるかをテーマに考えながら撮影している。

カラフトワシ成鳥：この個体は本州 2 ～ 3 ヶ所で今冬確認されている。
日本産イヌワシ属では最小。

ケアシノスリ成鳥雌：チュウヒの縄張りに侵入し追払われ悪戦苦闘。

ソデグロヅル幼鳥：　ドシャ降りの雨の中、何を捕食しているのか観察していると水田でタニシなど食べていた。

カナダヅル：　家族(4 羽)で入っているとのことで遠目に撮影
左から親・幼・親・幼の順。

ナベコウ成鳥：　2 個体入っていたが日中は別行動、この時期羽毛の光沢乏しいが
3 月に入ると嘴・眼の周辺・足の朱色は更に鮮やかになり全身の輝きも増す。

クロツラヘラサギ成鳥：しっかり撮ろうと頑張ってみたが動きが鈍く採餌後
水を飛ばすシーンは初撮り。

イワミセキレイ:　フイルム時代奈良橿原神宮で撮影して以来。

ニシオジロビタキ成鳥雄:　数少ない冬鳥、毎年何処かの公園に姿を現す、
人懐っこくあまり人間を怖がらない。

野鳥記録（2014 年 11 月 13 日から 2015 年 02 月 16 日までに報告があったもの）

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所（三重県）	雄/雌/などの区別	記録報告者名	脚注
ビロードキンクロ	9	2014年11月24日	津市島崎町志登茂川河口沖	雄が3羽その他は不明	前田 聰	1
ヤマシギ	1	2014年11月22日	松阪市飯南町相津峠		西村 四郎	2
ツリスガラ	７～８	2014年12月10日	松阪市愛宕川河口	雄、雌とも	西村 四郎	3
ムクドリ	1	2014年12月10日	松阪市金剛川河口	白化個体	西村 四郎	4
コクガン	1	2014年12月19日	四日市市鈴鹿川派川河口	成鳥	安藤 宣朗	5
マヒワ	７～８	2014年12月15日	員弁市北勢町		山神 勝治	6
カヤクグリ	1	2014年12月19日	四日市市山村ダム		山神 勝治	7
ソリハシセイタカシギ	1	2014年12月23日	四日市市　鈴鹿川河口		安藤 宣朗	8
ビロードキンクロ	10+	2014年12月25日	津市白塚海岸		山神 勝治	9
オジロビタキ	1	2014年12月15日	四日市市 垂坂公園・羽津山緑地	第1回冬羽でしょうか？	今西 純一	10
ソリハシセイタカシギ	1	2015年1月3日	津市安濃川河口	不明	片山 賢一	11
ムジセッカ	1	2014年12月18日	熊野市有馬町志原尻		中井 節二	12
アリスイ	1	2015年1月10日	三重郡菰野町菰野		矢田 栄史	13
シメ	5	2015年1月2日	三重郡菰野町菰野		矢田 栄史	14
ジョウビタキ	1	2015年1月9日	三重郡菰野町菰野 三滝川	雌	矢田 栄史	15
トラフズク	1	2015年1月10日	南牟婁郡御浜町引作		中井 節二	16
トモエガモ	2	2015年1月7日	いなべ市北勢町	雄・雌各1羽	山神 勝治	17
トラツグミ	1	2015年2月7日	三重郡菰野町千草		矢田 栄史	18
キレンジャク	1	2015年2月5日	津市柳山津興 阿漕塚境内		前田 聰	19
コウノトリ	1	2014年11月28日	亀山市太森町安楽川		竹中 敏	20

注
1）洋上にﾋﾞﾛｰﾄﾞｷﾝｸﾛの特徴である群れを発見、9 羽の群れがただよっていた
2）桜の木の下にいました、夜行性ですが見たのは朝８時頃です
3）ヨシ原に群れでいました
4）群れの中に１羽だけいました、白くかなり目立ちました
5）この場所では、初めて観察した
6）７～８羽の群れで木の実をついばんでいた
7）雪が残っている道路沿いでせっせと採餌していた

8）マガモなどカモ類と行動を共にしている、初認は、12 月 19 日と聞く、2015.02.08 現在滞在中
9）雌や若鳥が海岸近くまで泳いできた、雄成鳥は、はるか沖合で泳いでいた
10）地鳴きと仕草でオジロビタキと同定 16、17 日は家族が確認
11）カラスの威嚇や頭上を飛ぶカワウなどに反応して河口内を何度も移動していました
12）ウグイスの鳴き方と少し異なってチャチャと鳴いていた、尾羽が少し短かった
　2 日間見たが、それ以降見れませんでした
13）１月の観察は初記録
14）自宅庭で 20 ｃｍ?ほどの積雪の朝、１羽が雪がかぶった枝さきにとまってくれた
15）観察をしているとペリットを吐き出すところを撮影できた
16）体長 37 ｃｍコミミズクの耳羽より大きかった、模様もトラフズクでした
　弱っているので見て欲しいと連絡受けたが、相当弱っており、翌日なくなっていた
17）オシドリの群れと一緒に泳いでいた
18）ヒノキ林の林床でとてもゆっくり移動、時にダンスをまじえて地面のえさをとっていた
19）今期も時期がきたので立ち寄ったところ、キレンジャク１羽を初認した
20）日本野鳥の会を介して一般の方から当会に連絡が入った。写真は手持ちの現場用カメラで撮影したものとのこと

ツリスガラ（西村四郎：撮影）

コクガン（安藤宣朗：撮影）

カヤクグリ（山神勝治：撮影）

ソリハシセイタカシギ（片山賢一：撮影）

オジロビタキ（今西純一撮影）

ビロードキンクロ（山神勝治：撮影）

ムジセッカ（中井節二：撮影）

コウノトリ（竹中　敏撮影）

ミヤコドリカウント速報

平井正志

伊勢湾西岸で越冬するミヤコドリを 2014 年 12 月 15 日、および 2015 年 1 月 18 日にカウントしました。

12 月 15 日には高松海岸(14 羽)、安濃川河口(29 羽)、御殿場海岸(19 羽)で合計 62 羽、1 月 18 日には高松海岸(41 羽)、安濃川河口(19 羽)、香良洲海岸 (5 羽)で合計 65 羽でした。なお同時に愛知県矢作古川河口について西三河野鳥の会の下村孝嘉氏が調査しましたが、0 羽でした。詳細は次号に掲載します。

探鳥会報告（2014 年 11 月～ 2015 年 1 月）

●　中村川探鳥会
2014 年 11 月 2 日（日）9：30 ～ 11：30
松阪市嬉野一志町　中村川中流域
小野新子　竹川華子　参加者１３名(会員１２名)
マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、ダイサギ、イカルチドリ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ハチジョウツグミ、ジョウビタキ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ　計２４種
　今年は道幅の狭い住宅地を避け少し下流から堤防に上がった。
　早速、河川敷の繁みを出入りするノビタキやホオアカ、アオジ、ハチジョウツグミを観察することができた。
　お目当てのオジロトウネンは、以前越冬していた辺りが河川の改修工事で砂利や小石だった所が細かな砂地に変わったせいか、最近見られなくなった。少し残った砂利にイカルチドリが６～７羽休んでいた。

●　香良洲海岸探鳥会
2014 年 11 月 15 日（土）10：00 ～ 12：00
津市香良洲町　香良洲海岸
今井光昌　今井鈴子　参加者１７名(会員１７名)
ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイゼン、シロチドリ、ミヤコドリ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ　計３０種
　観察種が３０種と例年より少なめでしたが、穏やかな鳥見日和でカワウ、ユリカモメ、ウミネコ、ハマシギ、ミユビシギなど数が多く楽しんでもらえたと思います。特に、ミヤコドリが９月に渡来以降、最大数の６１羽も見られました。香良洲公園ではビンズイ２羽も観察できました。

●　大仏山探鳥会
2014 年 11 月 16 日（日）9：30 ～ 12：00
伊勢市・玉城町・明和町　大仏山公園周辺
橋本祐子　守田まゆみ　参加者９名（会員５名）
オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、トビ、ハイタカ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ　１８種
　朝は寒かったですが、風も弱く穏やかな天気になりました。
　小１、小 4 のお子様連れの参加があり、少人数ながらにぎやかな探鳥会でした。リーダーの指導力不足で、確認種数は思ったほどではありませんでした。
　鳥合わせの後、Ｎさんの鳥や自然の本のブックトークと、Ｍさんの身近に鳥を楽しむ本やご自宅のエサ台にくる鳥の話でもりあがりました。

●　木曽岬干拓地探鳥会
2014 年 11 月 23 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／日本野鳥の会愛知県支部
近藤義孝　米倉　静　参加者 19 名（会員 8 名）
オカヨシガモ(10)、マガモ(15)、カルガモ(25)、ハシビロガモ(15)、コガモ(100)、ホシハジロ(3)、キンクロハジロ(4)、カイツブリ(10)、カンムリカイツブリ(1)、キジバト(1)、カワウ(6000)、アオサギ(7)、ダイサギ(2)、コサギ(2)、オオバン(20)、タゲリ(40)、ケリ(2)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、ユリカモメ(1)、ミサゴ(6)、トビ(1)、チュウヒ(1)、ノスリ(1)、チョウゲンボウ(1)、モズ(3)、ハシボソガラス(100)、ハシブトガラス(15)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(10)、ヒヨドリ(14)、ウグイス(1)、メジロ(1)、ムクドリ(200)、ツグミ(3)、ジョウビタキ(2)、スズメ(50)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(7)、タヒバリ(20)、カワラヒワ(14)、ホオジロ(1)、アオジ(2)、ドバト(30)　計４４種
　カモ類やタゲリ・タヒバリなど冬鳥もたくさん観察できました。観察地点から遠く離れた木曽岬干拓地奥でチュウヒが飛んでくれました。

チョウゲンボウ

● 海蔵川探鳥会
2014 年 11 月 23 日（日）9：45 ～ 11：45
四日市市西坂部町　海蔵川沿い
川瀬裕之　参加者 9 名（会員 8 名）
ヒドリガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、ケリ、イソシギ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ
計２１種
今年度唯一の祝日での開催です。天気も良く沢山の参加者を期待したのですが、３連休の中日でもあり、思っていたほど人数が集まらなかったのが少々残念です。しかし初めて参加して下さった方が二人もおり、終始和やかな雰囲気でおわりました。
肝心の鳥の出はカイツブリのあいさつから始まり、ジョウビタキやツグミなど冬鳥にも会え、またこの場所ではあまり見ることが少ないヒドリガモ二羽が水面を気持ちよく泳いでいて、終盤にようやくここのマスコット的存在のカワセミも顔を出してくれて初冬の一日、楽しく鳥たちと触れ合えることが出来ました。

● ベルファーム探鳥会
2014 年 12 月 7 日（日）9：30 ～ 11：30
松阪市伊勢寺町　松阪市農業公園ベルファーム
谷口ひろ子　小津みゆき　参加者３５名　（会員２３名）
オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、トビ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、アオジ
計３３種
日本野鳥の会三重の『野鳥展』が松阪農業公園ベルファームにおいて同時に開催されたため、沢山の方に参加していただきました。
いつも姿をあらわすカワセミがきれいなブルーの体を見せてくれました。また、鳥種も３３種観察できましたが、例年に比べてカモの数が少ないように思われました。

● 二つ池探鳥会
2014 年 12 月 13 日（土）10：00 ～ 12：00
伊勢市黒瀬町　二つ池
橋本祐子　世古口有司　参加者８名（会員８名）
マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アオジ　計２７種
今年はカモの数が少なく、おめあてのハシビロガモのエサとりの様子が観察できませんでした。カワウが翼を広げてかわかす様子、アオサギが高い木の上から池をのぞく様子、カラスやメジロが柿を食べたり、モズが草地におりてバッタをとって食べるところを見ました。オオバンが柿をくわえたのに皆びっくり！最後に顕微鏡で池の水にいるシアノバクテリアの一種ミクロキスティスを観察しました。
以前に比べて雑木林が竹林にかわり、わずかに残った田が休耕になり、球場の駐車場が広がって一部林が伐られカワウのねぐらが周辺に広がりました。今後のことが気になるところです。

● 員弁川探鳥会
2014 年 12 月 14 日（日）9：00 ～ 12：00
いなべ市員弁町　員弁川周辺
近藤義孝　参加者１４名（会員４名）
キジバト、カワウ、アオサギ、ケリ、クサシギ、イソシギ、ノスリ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、ドバト　計２７種
この探鳥会は、いなべ総合学園高校の学びのプラザとして、いなべ市の広報でも宣伝してもらい開催しました。
開催時は晴れていた空が、途中から雪が舞ってきました。とても寒くて、予定より早く終了しました。テーマとして、瞬膜を観察しようということで、ハシブトガラスの瞬膜をみんなで確認しました。

● 横山池探鳥会
2014 年 12 月 14 日（日）10：00 ～ 11：30
津市芸濃町　横山池
落合　修　平井正志　参加者２０名(会員１７名)
オシドリ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、ハイタカ、ノスリ、クマタカ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、エナガ、

メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ベニマシコ、アオジ　計２９種
　寒風の中､横山池ではミコアイサのメスが２羽、池近くの林上空にノスリが出現、ベニマシコも観察できました。
　その後、錫杖湖へ移動し、到着すぐにクマタカを目の前で観察でき、多くの参加者が喜んでいました。オシドリは２０羽ほど観察できました。

●　木曽岬干拓地探鳥会
2014 年 12 月 28 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／日本野鳥の会愛知県支部
近藤義孝　米倉　静　参加者１７名（会員７名）
オカヨシガモ(22)、マガモ(7)、カルガモ(20)、ハシビロガモ(13)、コガモ(100)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(3)、ウミアイサ(1)、カイツブリ(13)、キジバト(2)、カワウ(40)、アオサギ(4)、ダイサギ(2)、コサギ(1)、オオバン(20)、タゲリ(40)、イソシギ(4)、ミサゴ(6)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(2)、アリスイ(1)、モズ(6)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(100)、ヒバリ(3)、ヒヨドリ(20)、ウグイス(1)、メジロ(5)、ムクドリ(30)、シロハラ(1)、ツグミ(7)、ジョウビタキ(4)、スズメ(100)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(3)、タヒバリ(10)、カワラヒワ(50)、ベニマシコ(5)、ホオジロ(10)、アオジ(5)、オオジュリン(1)、ドバト(45)　計４３種
　最初にアリスイがでてきて、さらにベニマシコがはっきりと観察できました。港へ移動すると、ウミアイサが泳いでいます。猛禽類は少なかったのですが、みんな満足の探鳥会でした。

●　上野森林公園探鳥会
2015 年 1 月 17 日（土）10：00 ～ 12：30
伊賀市下友生　上野森林公園
共催団体／上野森林公園・三重県環境学習情報センター
前澤昭彦　木村京子（県環境学習情報センター）
参加者２７名（会員２名）
オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、ビンズイ　計１９種
　四十九新池ではカモ類をゆっくり観察した。またジョウビタキも間近で見ることができた。
　森林公園や環境学習センターの HP にも情報が出ているので、県内各地から参加者があった。

●　伊勢湾西岸ミヤコドリカウント探鳥会
2015 年 1 月 18 日（日）14：00 ～ 15：00
四日市市高松海岸から伊勢市二見海岸まで各海岸
平井正志　岡　八智子　参加者１３名（会員１３名）
ミヤコドリ(65)、コクガン(７)、ズグロカモメ(7)、調査対象外ツクシガモ(16)
　調査地最北端の高松海岸で４１羽のミヤコドリが観察された。これまで、伊勢湾北部では少数の個体しか確認されていない。高松海岸を含む伊勢湾北部の海岸もミヤコドリ生息にとって重要な位置を占めていることを示唆する調査結果である。詳細は追って報告する。

●　銚子川河口探鳥会
2015 年 1 月 18 日（日）9：00 ～ 12：00
北牟婁郡紀北町海山区　銚子川河口
中井節二　北川直人　参加者１９名（会員８名）
キジ、カルガモ、カンムリカイツブリ、キジバト、アオサギ、イソシギ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、アリスイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ドバト　計３０種
　今回たくさんの方に参加していただきました。今までで最高の人数です。望遠鏡が少なかったのが、少し気になりました。

ヒヨドリ

●　両が池探鳥会
2015 年 1 月 24 日（土）9：30 ～ 12：00
いなべ市大安町石榑東　両が池公園
安藤宣朗　参加者８名（会員８名）

オカヨシガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、イカルチドリ、アオアシシギ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ　計３２種

風もない穏やかな快晴で絶好の探鳥日和であった。今日の目玉はミコアイサ。両ケ池の上池は水が抜かれており、狭い水たまりに泳ぐ１０数羽のミコアイサが近くで見られて大感激。例年見掛けるアメリカコガモを全員で探すも見つからず。８種類のカモ類の他、アオアシシギやイカルチドリなど３２種類もの野鳥に出会えた楽しい探鳥会であった。

● 木曽岬干拓地探鳥会

2015 年 1 月 25 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／日本野鳥の会愛知県支部
近藤義孝　米倉　静　参加者１０名（会員５名）
オカヨシガモ(2)、マガモ(20)、カルガモ(20)、ハシビロガモ(34)、コガモ(150)、ホシハジロ(30)、キンクロハジロ(10)、カイツブリ(2)、キジバト(10)、カワウ(100)、アオサギ(2)、オオバン(30)、タゲリ(3)、ケリ(2)、イソシギ(2)、カモメ(1)、ミサゴ(8)、トビ(1)、チュウヒ(1)、ハイイロチュウヒ(1)、ノスリ(3)、アリスイ(1)、モズ(3)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(70)、ヒバリ(5)、ヒヨドリ(20)、メジロ(2)、ムクドリ(10)、シロハラ(1)、ツグミ(20)、ジョウビタキ(3)、スズメ(150)、ハクセキレイ(5)、セグロセキレイ(3)、タヒバリ(5)、カワラヒワ(70)、ホオジロ(15)、アオジ(1)、オオジュリン(3)、ドバト(200)　計４１種

寒中とは思えない暖かい日で探鳥会には最適でした。

参加者は少なく１０名でしたが、鳥合わせでは各人４回分の鳥がありました。ハイイロチュウヒのメスも観察できました。

● 大淀海岸探鳥会

2015 年 1 月 25 日（日）9：30 ～ 11：30
多気郡明和町　大淀海岸
岡本忠佳　中村悦子　参加者１０名（会員８名）

キジ、ヒドリガモ、ホシハジロ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、ヒメウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、シロチドリ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カナダカモメ(？)、ミサゴ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、ドバト　計３９種

冬の一番寒い時期でしたが、当日は風も弱く日差しもあとから出て、観察には助かりました。

漁港、海岸ではカモメ、シギ、チドリの種が少なかったのですが、テトラポットの奥でヒメウが首だけ見せてくれてみんなの視線が集まりました。漁港沿いの雑木林ではジョウビタキ、シメ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカなどの小鳥がたくさん出てくれて合計３９種になりました。

==========

編集後記

前号で会報をカラー化し、やっと時代に合った体裁にできた。今度は内容を充実させることが必要である。こればかりは会員諸子の協力がなくてはならない。インターネット全盛の時代ではあるが、紙ベースの情報の保存性の高さも再評価されるべきであろう。会員からの写真、文などの投稿を乞う。

なお、年月を経過した号については当会ホームページ上で公開し、広く全国の鳥仲間、自然保護関係者に知ってもらうようにした。

M.H.

しろちどり　83 号
2015 年 3 月 10 日発行
題　字：濱田　稔
表紙絵：石原　宏
カット：平井正志
編　集：平井正志
発行所：日本野鳥の会三重
平井正志　方
514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印　刷：株式会社プリントパック
617-0003 京都府向日市
森本町野田 3-1